

妻ヶ丘中学校だより

令和5年1月11日 校長 深江 祐史

第三学期が始まりました

新年あけましておめでとうございます。17日間の長い冬休みでしたが、いかがだったでしょうか。今回も新型コロナウイルス感染症が流行する中での新学期のスタートとなりました。残念ながら、始業の日を欠席せざるを得なかった人たちもいるようです。

現下の状況から、感染が落ち着くまでには、もう少し時間がかかるものと思われます。特に3年生のご家庭では、受検を控え、心配と緊張の三学期になると思いますが、もしもの時は、どうぞ遠慮なく担任の先生等にご相談ください。状況に応じて、県教委や高等学校等に確認を取りながら対応して参りたいと考えております。

なお、学校としても当面の間は適切なマスク着用、こまめな手指消毒、定期的な換気等、引き続き感染拡大防止の取組を継続していきますので、登校前の連絡を含め、ご家庭のご理解とご協力どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、3年生は進路目標実現、1,2年生は次の学年へ向けての仕上げの時期となる大切な三学期をみんなでしっかり頑張っていきましょう。

始業式が行われました。

本日(10日)の始業式では、4名の生徒に「三学期の抱負」を述べてもらいました。

1年代表の 塩川 翔琉 さんは、三学期①生活習慣改善②勉強に対する意識を変える③思いやりのある学年にするの3つを掲げました。特に①では睡眠時間をしっかり確保したいとのこと。睡眠には脳内の“ゴミ”を掃除する作用があるともいわれますので、睡眠不足には十分注意してほしいです。

2年代表の 大田 智仁 さんは、①今年は受験を意識し学力向上を図りたい②夏に向け部活動では特に心を鍛えたい③委員長として積極的にリーダーシップを発揮したいでした。②についてですが、部活動で結果を出したいのなら「心・技・体」に加えて「生活」が大切だと私は思っています。

3年代表の 大橋 和 さんは、①冬休み、勉強を頑張ったが、本番でミスが出ないようにさらに問題を繰り返し解きたい②“当たり前”を大切に日常生活を送りたい③これまで以上に体調管理に努めたい。そして3年生みんなで力を合わせて笑顔の卒業式を迎えたいと決意を述べてくれました。

生徒会代表の 大橋 ころろ さんは、受検に挑む3年生を応援する雰囲気づくりをするとともに1,2年生が伝統を引き継げるよう頑張りたいとのこと。特に企画の段階から社会福祉協議会に参加依頼をされている2月実施予定のボランティアフェスティバルをぜひ成功させたいそうです。

4人は緊張の表情でしたが、しっかり自分の考えを発表しました。後は、それをいかに行動にうつせるかです。自分への挑戦ですね。頑張ってください。

その後、私からは、全校生徒に対して以下の話をさせていただきました。

さて、前回紹介したのは、メッシ選手でしたが、今回紹介するのは、この人です。

かなり話題になりましたので、知っている人も多いのではないのでしょうか。この人は、「川崎レナ」さんです。大阪のインターナショナルスクールに通う17歳です。

川崎さんは、去年11月「国際子ども平和賞」を受賞しました。この賞は、毎年オランダの団体が子どもの権利擁護に大きく貢献した人に贈っているものです。過去には、マララ・ユスフザイさん（後にノーベル平和賞を受賞します）、そしてスウェーデンの環境活動家、グレタ・トゥーンベリさんが受賞しています。

この2人と同じ賞を日本の高校生が受賞したわけです。凄いことですね。なお、川崎さんが、どんな社会貢献をしたのかについては、できれば、皆さん自身で調べてほしいと思います。

ただ、川崎レナさんが社会貢献をしようとしたきっかけは、「ランドセルは海を超えて」という本だったそうです。この本には、戦禍で疲弊したアフガニスタンにランドセルや文具を贈る活動が紹介されています。この本を8歳の時に読んで、それがきっかけで行動を起こそうと決めたそうです。

人生を豊かにするためには「人と出会うか、本と出会うか」とも言われます。本を読むといろんな人の考えに触れることができ、刺激を受けます。ぜひ若い内に多くの本を読んでもらいたいと思います。

まあ、でも、これは川崎レナさんの話、世界規模の話で、ちょっと自分には・・・と思う人もいるかもしれません。ちょっとこの写真をみて下さい。

これは、昨年9月に行われた「妻ヶ丘地区まちづくり協議会懇談会」の様子です。この日の議題は「地域住民が楽しく参加できるふれあい祭りはどうあればよいか」でした。実はこの祭りはここ数年コロナの影響で行われていません。でも、次年度は、是非実施したいと地区の実行委員の大人の方々は話し合いを続けています。

実行委員会の中で「魅力的な祭りをするために、ぜひ、若者の意見を聞きたい」という声が上がったようです。そこで、これまで大人のみで行っていた会議に高校生、大学生そして中学生が参加することになりました。新しい、若者の視点を取り入れた協議が行われることになったわけです。

そこで、本校の生徒会（旧生徒会）の執行部が、様々な、具体的な企画を提案しました。これ、現実にはできる？と思うユニークな案もありましたが、結果的には好評でした。

会の最後に、司会をされていた事務局の方が「多くの意見を出してもらって感謝している。ここまで中学生が本気で考えてくれるとは正直思わなかった。感動した」と述べられました。

みなさん、今、社会は、非常に解決が難しい、いくつものリアルな課題を抱えています。それは、世界規模のものもあれば、私たちの住む地域レベルのものもあるのです。大人も必死にその課題を解決しようと知恵を絞っているのですが、なかなか難しい、その突破口として、社会は若い力を求めていることをぜひ新年の始めに皆さんに伝えておきたいと思います。

三学期が始まります。特に3年生にとっては、正念場になります。どうぞ悔いの残らないよう頑張ってください。

以上で私の話を終わります。

保護者そして地域のみなさま、2023年も妻ヶ丘中学校の子供たちをどうぞよろしく願いいたします。